

1. 実況上の着目点

- ① 台風第26号が日本の南を北東進。台風周辺の対流雲域の雲頂高度は低下傾向。
- ② 千島の東の低気圧からのびる前線が伊豆諸島付近を通過して日本の南にのびる。上空のトラフに対応して、日本の東で降水が強まるが、陸上ではやや強い雨を解析。
- ③ 低気圧が中国東北区を東進。
- ④ 日本海の高気圧が東南東、黄海の高気圧がゆっくり南南東へ移動。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

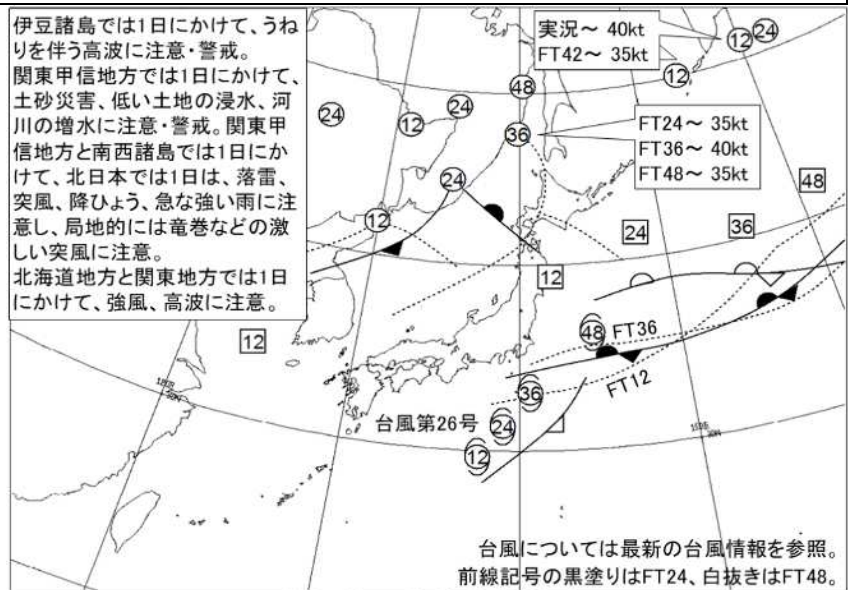
- ① 1項①の台風第26号は次第に勢力を弱めながら、10月1日朝にかけて伊豆諸島付近を通り日本の東へ進み、次第に日本付近への影響は小さくなる。台風の影響で、強い風が吹き、しける所がある。伊豆諸島では1日にかけて、うねりを伴う高波に注意・警戒。
- ② 1項②の日本の南にのびる前線は、30日夜にかけて本州の南海上に停滞した後、ゆっくり北上する。前線に向かう下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となる所がある。これまでの大雨で地盤が緩み、少ない雨量でも土砂災害の危険度が高まる所があることに留意。関東甲信地方では1日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。関東甲信地方と南西諸島では1日にかけて、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意し、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。
- ③ 1項④の日本海の高気圧は、日本海を通過して、1日朝までには日本のはるか東へ移動する。このため、北～西日本の前線の影響を受けにくい地域では高気圧の張り出しで晴れ間が広がる。
- ④ 1日は、2項①の台風第26号が日本の東を北東進し、その後、温帯低気圧に変わる。1項③の中国東北区の低気圧は、次第に500hPa 5460m付近で-24℃以下の寒気を伴う正渦度極大域に対応しながら発達し、1日朝までに間宮海峡へ進み、低気圧からのびる前線は閉塞し北海道付近へ達し、前線が北日本を通過する。前線通過後は下層の寒気が北日本に広がる。500hPa 5400m以下で-30℃以下の寒気を伴う寒冷渦が沿海州付近へ進み、北海道地方を中心に上空に寒気が広がる。低気圧や前線に向かう下層暖湿気と上空の寒気の影響で、大気の状態が不安定となる所がある。北日本では1日は、落雷、突風、降ひょう、急な強い雨に注意。低気圧や前線近傍での風の強まりや台風第26号の影響で、強い風が吹き、波が高くなる所がある。北海道地方と関東地方では1日にかけて、強風、高波に注意。
- ⑤ 2日は、朝鮮半島付近へ移動してきた高気圧に覆われて、西日本を中心に晴れる所が多くなる。北～東日本は、低気圧の影響で曇りがちで、日本海側では雨の降る所がある。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ①雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島 150mm。

②波浪(明日まで)：伊豆諸島 5、北海道・東北・関東・四国 3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図